

編集後記 桜の花のように

この原稿を書いている春分の日の3月21日、東京や福岡で桜が開花したというニュースが届きました。
今年も無事に桜を見ることができるとを幸せに思います。



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



そして、桜前線の到来は、野球のシーズンの到来でもあります。

1月に同郷（宮崎）のオリックスバファローズの西村新監督の激励会に行きました。

主力が抜けて今シーズン戦力的には厳しいオリックスですが、皆さん温かい目で見てくださいね。(^^)

そのオリックスといえば、引退を表明したマリナーズのイチロー選手を輩出した球団でもあります。

昨年、ナ・リーグMVPを受賞したミルウォーキー・ブルワーズのイエリッチ選手にとってイチロー選手は子供の頃からの憧れの選手でバッテリーボックスのあのイチロー選手の仕草の真似をしていたそうです。

僕が少年野球のコーチをしていた時、背番号51をもらった子どもは「イチローだ」とはしゃいでいました。

うちの愚息が小学校3年生の時に買ったグローブがミズノの「イチローモデル」。

買ったその晩、自分の布団にグローブを入れて眠りについた彼はとても幸せそうでした。

その後、「イチローモデル」のバットも買うはめになりましたけどね。(+_+)

日本プロ野球、メジャーリーグの両方で、MVP、首位打者、盗塁王、ゴールデングラブ賞等のタイトルを獲得し、走攻守全てにおいて飛びぬけたイチロー選手は、世界じゅうの野球少年の憧れであり目標でした。度肝を抜かれたレーザービームをはじめとするスーパープレイの数々、自らを律し地道なトレーニングで心と技を磨いてきた姿勢、そして道具を作ってくれた人に感謝しバットやグラブやスパイクをととても大切にしていた姿勢。桜の花言葉に「精神美」があると聞きますが、イチロー選手は桜のように特別な存在でした。

イチロー
みたい
になりたい
デス



イチロー選手はドラフト4位でオリックスに入団した当時、野球のマニュアルにはない独自の打ち方をしていました。コーチは「自分勝手スイング」と呼んでいたそうです。当時のオリックスの新井コーチや河村コーチは、その長所を活かしながら「振り子打法」という唯一無二のスタイルを確立させ、名選手に育てました。もちろんイチロー選手の努力は大変なものだったと思いますが、指導者にも恵まれたのだと思います。

人事評価制度の打合せの時等に、管理職の「指導力」とは何か？という話になることがあります。

それに対して「やる気にさせる能力だと僕は思います」と答えています。

よく、褒めて伸ばすといいますが、別に褒めることが大切なのではありません。

厳しい言い方ですが、管理職は、褒めて叱って部下をやる気にさせて、なんぼです。

マル、バツをつけるだけなら、それは批評家の仕事ですからね。



「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という言葉をご存知でしょうか？

桜と梅はともにバラ科サクラ属の落葉広葉樹ですが、桜は枝を切ると花が咲かなくなるだけでなく枯れてしまう事が、梅は反対に枝を切らないと良い実がつかないところからきているそうです。

その言葉の指すところは、同じような樹木でもそれぞれの特徴や性格があり、それぞれに向き合って世話をしないとうまく育たないということだと思えます。

人は感情の動物ですから、「人の育成」となるとなおさら難しいですよ。

万人に通じる、部下をやる気にさせるマニュアルなんてありません。

部下の育成に悩みながら管理職もまた成長していくのだと思います。

4月は組織の変更や異動や新入社員も多い季節で管理職の方は苦勞が多い季節。

でも、部下の中には、将来MVP級の花を咲かせる社員がいるかもしれません。

管理職の皆さん、頑張ってください！ だって、西村監督も頑張ってください！ (^^)/



オリックス
西村監督